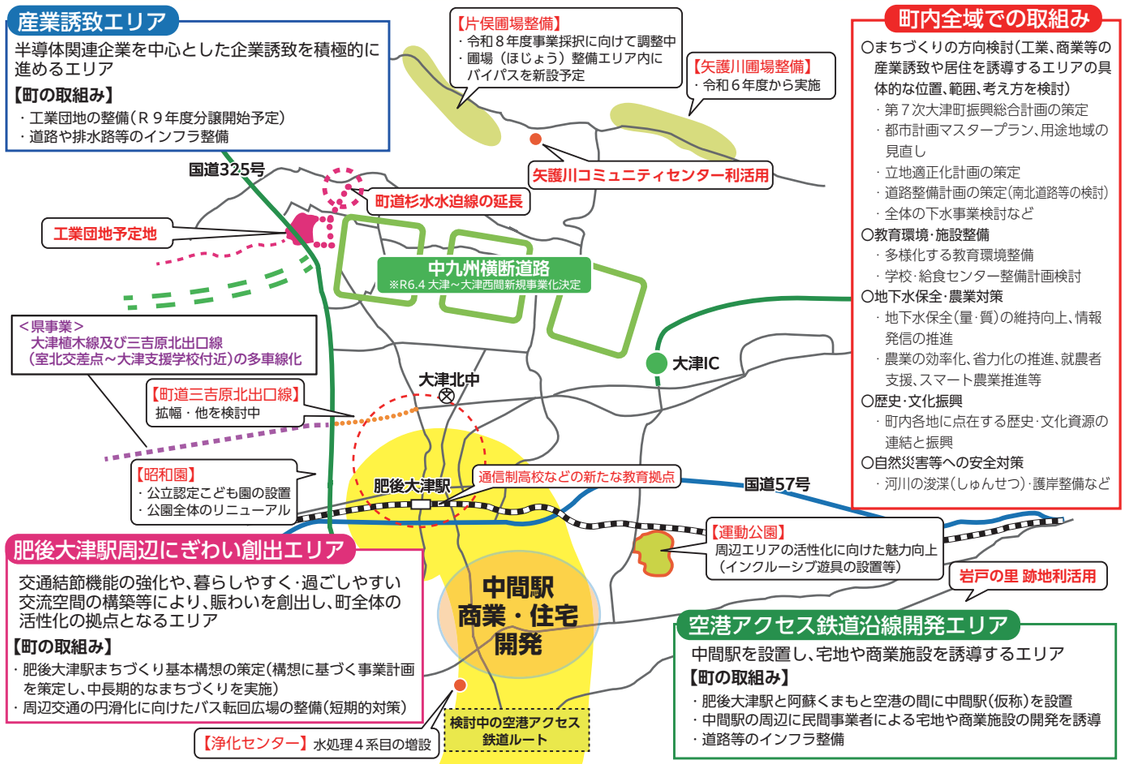
TSMC進出と空港アクセス鉄道の開通を踏まえた大津町まちづくりの方向性



参加者からの質問や意見

●道路や渋滞に関すること

「住民数の増加や、企業進出に伴う通勤車両の増加などに伴う渋滞対策」、「通学路などの交通安全対策」などの質問がありました。

町から「渋滞のデータをもとに道路整備計画の策定や、信号の切り替え時間の調整などを行い、対策を進めています」、「企業の協力のもと、時差出勤や通勤バスの実証運行などを検討しています」、「通学路の安全については、交通安全プログラムにより、学校、保護者、国・県・町の道路管理者、警察等で危険箇所の点検を実施しています。」と回答しました。

●災害対応について

「南部に水害時の避難所がないため整備をしてほしい」と意見があり、町からは、「避難所の整備の必要性は強く感じており、地元や関係者と協議し進めていく」と回答しました。

●そのほかの質問・意見

「少子高齢化と人口減少による過疎化への対策」や「学校プールの開放請願について」、「半導体関連企業に伴う地下水利用の問題」、「肥後大津駅周辺や公園整備について」など、各地域の実情によった、さまざまな質問や意見がありました。

まとめ

昨年に続き、小学校校区ごとにまちづくり町民懇談会を全7回開催しました。

町長から「大津町の現状とまちづくりビジョン」を説明し、町民のみなさんと、町の課題や未来について、意見を交わしました。

いただいたご意見や、地域の課題を把握し、百年に一度の変化と言われているこの過渡期の中で一人一人がより一層「住み暮らしやすい」まちとなるように取り組んでいきます。

まちづくり町民懇談会の内容は、町ホームページにも掲載しています▼

令和６年度

大津町まちづくり町民懇談会

TSMCの進出をうけ、さまざまな変化が訪れている大津町。町の現状や取り組みを説明し、皆さんの意見を聞くために、町内の小学校区７か所で「大津町まちづくり懇談会」を開催しました。

大津町の現状とまちづくりビジョン　町長説明抜粋

町の現状

TSMCの進出決定以降、大津町においても半導体の製造設計や物流など、34社が新たに操業を開始している。戸建住宅や集合住宅の新規開発も増加しており、これから1、2年で約2，500戸が完成見込みで人口のさらなる増加につながる見通し。

また、南阿蘇鉄道の復旧と肥後大津駅への乗り入れ、阿蘇熊本空港のリニューアルなどとともに、将来的な中九州横断道路や、熊本空港アクセス鉄道の整備によりアクセスの向上が見込まれ、企業集積地・交通結節点としての役割が拡大している。大津町をとりまく環境は大きく変化している。

町の課題

一方で、渋滞、土地利用、地下水、コミュニティの維持、過疎化、高齢化など様々な課題がある。町の中心部では人口が増加しているが、特に南部北部では少子高齢化が進んでいる。地域の活性化、住環境向上を進めていく必要がある。単に人口や企業が増えても、住民の暮らしが悪化するばかりなら本末転倒であり、人口が増える一方で生活環境が悪くなるような状況は避けなければならない。数だけではなく、暮らしの質を確保していかなければならない。

一方で、人口密度の向上は行政サービスの向上、商業施設や医療施設の増加などの生活環境の向上につながる部分もある。また、日本全体で人口減少が進む中で、持続可能性を確保し、我々の未来や次世代を守るためには、町を変化、発展させる視点も必要と考えている。

町の取組

昨今の取り組みとして、幼稚園保育園の再編計画をはじめとする町有施設整理、民間活力発揮のための創業支援補助金やスマート農業補助金などの取り組みを行っている。また、歳入増加の取り組みとして、ふるさと納税の強化、宿泊税導入の検討、企業誘致などに力を入れている。町内の地域の特色や、今後見込まれるインフラ整備などに併せて北部では※圃場（ほじょう）の整備や企業の誘致などによる産業振興、中部では肥後大津駅を中心とした周辺のにぎわいの創出、南部では空港アクセス鉄道整備に併せた商業・住宅などの沿線開発を進めていきたい。

また、今後は肥後大津駅周辺整備、工業団地の整備による企業誘致の推進、道路整備、渋滞対策、学校施設などの教育環境整備、公立認定保育園などの子育て環境整備、地下水保全対策、圃場整備などの取り組みを行っていく。

※圃場（ほじょう）…農作物を育てる場所